

科目名	博物館概論		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

学芸員課程科目のうち初年次に履修する基礎的な科目として、博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養うことを目的としている。

#### 科目の概要

博物館の歴史および今日の博物館の目標、事業、組織、運営形態などを概観し、博物館の定義、機能、存在意義について、博物館を利用する社会との関係において理解する。

#### 学修目標 (= 到達目標)

現代社会における博物館の役割や意義を学び、学芸員の使命や活動内容の理解を深める。また、今日の日本の博物館における目標、事業、組織、運営形態を、諸外国の事例と比較することで、現状の整理・把握に努める。

内容	
1	イントロダクション
2	博物館の歴史
3	博物館の定義
4	博物館の機能と存在意義
5	博物館資料の収集・保存・管理
6	博物館資料の研究・展示
7	日本の博物館の歴史
8	日本の博物館の種類
9	日本の博物館の活動 ( 見学授業 )
10	博物館の運営形態
11	展示の企画と運営
12	博物館展示と教育普及活動
13	学校教育との連携
14	生涯学習の場
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】日本国内にはさまざまな種類の美術館・博物館があるので、その多様な活動内容や収蔵品について調べておく

。【事後学修】ノートを見返して、授業の内容を見直しておく。また、なるべく多くの種類の博物館を訪れてみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【参考図書】授業内で指示する

科目名	博物館経営論		
担当教員名	岡部 昌幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

学芸員資格取得のための必修科目

科目の概要

博物館の使命と組織形態、ならびに実際の管理運営の方法について理解し、博物館を経営すること (ミュージアム・マネジメント) の基礎的能力を養う。

学修目標 ( = 到達目標 )

- 1 日本の博物館の現状の把握
- 2 組織経営学の基本の習得
- 3 博物館経営の重要性を認識

内容

1	ミュージアム・マネジメントとは？
2	博物館を囲む行財政制度
3	博物館の財務
4	同 施設設備
5	同 組織と職員
6	同 経営の使命と評価
7	同 危機管理
8	同 マーケティングとパブリシティ活動
9	同 ショップ、カフェ等の経営
10	同 利用者との相互組織 ( ボランティア、友の会など )
11	同 他館や学校とのネットワーク活動
12	同 地域社会と博物館との関係 ( 観光、町おこし、祭事など )
13	同 企業のメセナ活動と博物館
14	学外博物館見学のための指導
15	まとめ

評価

レポート2通 ( 課題と博物館見学 ) を提出するものとし ( 80点 ) 、平常点20点を加えて総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】それぞれの授業内容を確認し、前の授業で予告したテーマについて1時間の予習をする

【事後学修】授業内容について、指摘した問題点についてそれぞれが解答し、メールで報告する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない、プリントを配布する

【推薦書】授業内で指示する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	博物館資料論		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。

#### 科目の概要

博物館における資料の収集、研究、公開・普及、保存・管理について取り上げ、その資料の価値の共有をはかりながら適切に将来に引き継ぐという役割について考察する。

#### 学修目標 (= 到達目標)

資料保存について基礎的な知識を学ぶとともに、そのみならず、資料利用、資料展示(公開)、博物館教育活動、情報メディアなどとの関連性を理解する。

内容	
1	イントロダクション
2	博物館の活動と資料
3	モノから博物館資料へ
4	博物館における資料の収集
5	資料に関する研究
6	データベースの作成
7	調査研究成果の社会還元
8	資料公開の準備
9	博物館資料を活用した教育普及
10	資料を公開する設備とコンディション
11	資料の保存
12	公開と保存のバランスに関する問題
13	資料の修復
14	アーカイブ資料とは何か
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】国内外の博物館の収蔵資料にはどのような種類のモノがあるのか、書籍やWEBサイトで調べておく。

【事後学修】ノートを見返して、授業の内容を見直しておく。また、実際の博物館を訪れて、資料公開の現場を知るように心がける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】

【参考図書】授業内で指示する

科目名	博物館教育論		
担当教員名	栗山 究		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

文部科学省令で定められた、大学における学芸員資格課程の必修科目で、経営論・資料論・資料保存論・展示論・情報メディア論とともに博物館学系科目を構成する各論の一つです。

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育的役割を考察します。

##### 科目の概要

博物館における事業や活動の理論的・実践的意味を具体的な事例に即して学び、博物館における学びとその学びを支える人たちの役割を考察します。博物館における事業や活動を、学習・研究や運動等を総体した教育実践として捉える視座を獲得するための基礎的な理解を深めていきます。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

博物館を通して、私たちはどのような学びや学びあいをつくりだせるか、博物館における学びを支える人たちの役割とは何かを意識して学修してください。博物館における教育実践を探究していく基礎的な分析枠組みを理解し、博物館における学びを支える人たちの実践を分析できるようになります。

自分の考えや意見を簡潔に表現し、他者へ円滑に伝えていく方法を、検討できるようになります。

#### 内容

講義内容と関連して適時、受講者相互の学びあいが促されるようなグループワークやディスカッションを実施し、授業を展開していきます。

授業内容は、受講者相互の問題意識や興味関心の程度に応じて、ある程度変更していく可能性があります。

1	オリエンテーション：学芸員資格課程カリキュラムの歴史と博物館教育論の位置づけを考える
2	博物館における教育の構造（1）：これまでの教育経験をふりかえるグループワーク
3	博物館における教育の構造（2）：「学び」という観点から捉えかえす
4	社会教育施設である博物館：法制度から見た学習支援者の原則とその役割を学ぶ
5	欧米と日本で展開してきた博物館教育の議論：その基本的特徴、意味と課題を学ぶ
6	学校教育における博物館の活用（学習指導要領との関係を含む）：その実際を学ぶ
7	地域社会に根ざした博物館の教育実践：代表的な公立博物館を事例に検討する
8	地域における学芸員の実践分析（1）：実践記録を分析するグループワーク
9	地域における学芸員の実践分析（2）：現在進行中の実践に学ぶ
10	地域における学芸員の実践分析（3）：事業に参画した学習者の学習過程に学ぶ
11	住民の学びから開設した博物館の教育実践：幾つかの実践概念が生まれてきた背景を検討する
12	博物館における教育実践の展開と課題：博物館の教育実践を構成する諸契機を捉える
13	学習を支える人たちの役割の検討（1）：グループ別報告会
14	学習を支える人たちの役割の検討（2）：全体報告会

**評価**

- (1) 筆記試験：35% 受験は単位修得の必要条件です。理解度の確認を行います。
- (2) 学期末レポート：45% 提出は試験を受験するための必要条件です。授業内で説明します。
- (3) 平常点：20% コメントペーパー・中間レポートの提出、グループワークでの貢献とし、総合評価60点以上を合格とする。

**授業外学習**

- 【事前準備】さまざまな博物館や関連施設を訪問する、実践の現場に参加する、紹介した参考文献を読んでもみるなどして、自らの学びを深めてください。各回の事前準備内容は、授業内で指示します。
- 【事後学修】配布教材等は復習に活かし、授業内容・グループワークやディスカッションで気づいたことをふりかえる時間を自覚的につくってください。レポートは計画的に準備して仕上げてください。

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】特に指定しません。各回テーマに応じて、担当教員が作成して配布します。

**【推薦書】**

- (1) 下記のほか、初回および各回の講義内で文献一覧を提示します。
- ・君塚仁彦・名兎耶明編（2012）『現代に生きる博物館』明石書店
  - ・浜田弘明編（2014）『シリーズ現代博物館学 博物館の理論と教育』朝倉書店
- (2) ジョン・デューイの著作（「学習と社会」など）を1冊読んでおくと、授業内容の理解がより深まります。



科目名	博物館情報・メディア論		
担当教員名	栗山 究		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

文部科学省令で定められた、大学における学芸員資格課程の必修科目で、経営論・資料論・資料保存論・展示論・教育論とともに博物館学系科目を構成する各論の一つです。

博物館における情報の意義と発信の課題を理解することで、博物館情報の提供や活用に関する基礎的な知識と方法を習得します。

科目の概要

前期の教育論で学修した博物館の教育実践を「情報発信の媒体装置」として捉えなおすことによって、さまざまな情報が蓄積する博物館の現代的状況への理解を深めていきます。

デジタル方式の情報通信技術が急速に革新する現代社会において、博物館資料の情報を記録・管理し、組織化することの有用性や諸課題について、具体的な実践事例をもとに考察します。

学修目標 ( = 到達目標 )

博物館におけるさまざまな情報を、私たちはいかに活用するかを意識して学修してください。メディアとして博物館を認識することができるようになります。インターネット上で公開している資料管理データベースなどの成り立ちを理解し、現状と課題を踏まえて使いこなせるようになります。

内容

講義内容と関連して適時、受講者相互の学びあいが促されるようなグループワークやディスカッションを実施し、授業を展開していきます。

インターネットを活用した演習や現地見学会を計画する予定です。

授業内容は、受講者相互の問題意識や興味関心の程度に応じて、ある程度変更していく可能性があります。

1	オリエンテーション：博物館情報・メディア論を学ぶ意義と背景
2	博物館で取り扱う情報・メディアの種類とその特性：活用事例を探るグループワーク
3	博物館展示における情報通信技術の活用：代表的な実践事例から意義と課題を検討する
4	博物館におけるインターネット教材の開発：代表的な実践事例から意義と課題を検討する
5	博物館における学習者理解の変遷：コミュニケーションの場という観点から意義と課題を考える
6	多様化・拡張化する博物館機能：現代社会における博物館の実践を捉える分析枠組みを検討する
7	デジタル化時代と博物館資料：文書館や図書館における実践動向と関連して理解する
8	資料管理データベースの活用：実際に使用してみたの意義と課題を検討する
9	博物館における資料と情報の管理と公開：代表的な実践事例からそのあり方を考える
10	資料管理データベースの構築と運用：代表的な実践事例からその具体的プロセスと課題を学ぶ
11	現地見学会 ( 1 ) 博物館資料の情報化の実際を学ぶ
12	博物館と知的財産 ( 1 ) 現地見学会のふりかえりとグループワーク

13	現地見学会（2）資料管理データベースの構築と運用の現状と課題を学ぶ
14	博物館と知的財産（2）現地見学会のふりかえりとグループワーク
15	まとめ

## 評価

- （1）試験：40% 理解度の確認を行います。
- （2）レポート：40% 提出は試験を受験するための必要条件です。授業内で説明します。
- （3）平常点：20% コメントペーパーの提出、現地見学会の参加、グループワークでの貢献とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】さまざまな博物館や関連施設を訪問する、紹介したインターネットサイトや参考文献にアクセスしてみるなどし、自らの学びを深めてください。各回の事前準備内容は、授業内で指示します。

【事後学修】配布教材等は復習に活かし、授業内容、パソコン演習、現地見学会、グループワークで気づいたことをふりかえる時間を自覚的につくってください。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。各回テーマに応じて、担当教員が作成して配布します。

【推薦書】下記のほか、初回および各回の授業内で文献一覧を提示します。

- ・村田麻里子（2014）『思想としてのミュージアム ものと空間のメディア論』人文書院。
- ・日本教育メディア学会編（2013）『博物館情報・メディア論』ぎょうせい。
- ・西岡貞一・篠田謙一編（2013）『博物館情報・メディア論』放送大学教育振興会。